自サーバー内不正コンテンツの自動検出を実現する

96H713 濱中善洋

平成 12 年 2 月 4 日

目 次

1 はじめに **1**

2 自サーバー内の不正コンテンツ **2**
2.1 不正コンテンツの定義 2
2.2 不正コンテンツ事情 2
2.2.1 ユーザー側の不正コンテンツ 2
2.2.2 管理者側の不正コンテンツ 2
2.3 不正コンテンツの隠蔽 2
2.3.1 分割ファイル 2
2.3.2 拡張子の変更 2
2.3.3 クローキング 2

3 不正コンテンツの検出作業 **3**
3.1 検出手順 3
3.2 レポートの利用方法 3
3.2.1 CGI を使ったレポート 3
3.2.2 コマンドラインでの使用 3
3.3 不正コンテンツ検出プログラム 3
3.4 検出アルゴリズム 3
3.5 ソースコード 3

4 考察 **4**
4.1 プログラムの実行結果 4
4.2 課題 4

5 まとめ **5**

1　はじめに

Web の環境が整い出した現状

2　自サーバー内の不正コンテンツ

現在の Web 環境での、不正コンテンツのやりとり。

2.1　不正コンテンツの定義

公序良俗又は法令に違反する情報

2.2　不正コンテンツ事情

この研究をするに至った背景 (ふり)

2.2.1　ユーザー側の不正コンテンツ

Web スペース管理者のユーザーと、その Web スペースの訪問者であるユーザーとのやりとり。

2.2.2　管理者側の不正コンテンツ

自サーバー内の不正コンテンツが及ぼす影響

2.3　不正コンテンツの隠蔽

ユーザーによる不正コンテンツの隠蔽作業隠蔽作業を行う上でのメリット。

2.3.1　分割ファイル

分割ファイルとは。

2.3.2　拡張子の変更

拡張子の変更とは。

2.3.3　クローキング

クローキングとは。

3　不正コンテンツの検出作業

現状の不正コンテンツ検出作業。

3.1　検出手順

作成したプログラムを使っての不正コンテンツ検出作業。不正かどうかを判断する方法。

3.2　レポートの利用方法

プログラムはレポートを出力する。

3.2.1　CGI を使ったレポート

CGI 出力のレポート内容。メリット。

3.2.2　コマンドラインでの使用

標準出力されるレポートの内容。メリット。有効な仕様方法 (設定ファイル)。

3.3　不正コンテンツ検出プログラム

プログラムの特徴。

3.3.1　検出アルゴリズム

大まかなフローチャート

3.3.2　ソースコード

主処理部分の説明。

4　考察

研究用に作成したプログラムについての考察。管理者へ提供できる情報。足りない情報 (機能)。

4.1　プログラムの実行結果

このプログラムを使うことのメリット。

4.2　課題

これから実用化するために必要なもの。

5　まとめ

研究結果 (目的の達成有無)。研究を進めるにあたって、一番時間を費したこと。謝辞。

6　付録

ソースコード全文 (もちろんコメント抜き)